

々も々もの話～低血圧が脳梗塞を引き起こすの巻～

みなさんこんにちは、ふじみ薬局の高橋のぶとです。

昼夜の温度差が大きいときほど、自律神経のバランスが悪くなって体調をくずしやすいですから、季節の境目はきちんとお身体ご自愛くださいね(´▽`)/

さて、前回のふじみ新聞に小さく書いた「松本先生の血圧と脳梗塞の話」です。
今回はもうちょっと詳しく書いてみようと思います。

松本先生のお話のメインテーマは

- ①笑い ～笑う門には福来る。プラス思考で元気になるのが科学で証明される時代～
- ②歳 ～歳を受け入れる。加齢現象は「症」ではない。骨粗鬆、高血圧など～
- ③今が最良 ～原因があって結果がある。カラダの反応はその時の最良の選択の結果～
- ④知りぬが仏 ～病気に執着しない。バカは風邪ひかない～
- ⑤科学的 ～誰が、そう言っているのか。論文？科学的？薬の必要性～

では、今回は①のお話をしましょうか、

と想いましたが、『々も々も血圧の薬って飲まなくていいんだよね～!?』というのがみなさんの関心ごとですよね？ ということで、このお話をまずさせてください。

まず、いまの日本の医療では「血圧は低ければ低いほど良い」という流れがまだまだ多いそうです。
松本先生も1998年くらいまでは そう信じ込んでいた そうです。

しかしある日のこと、片足を引き擦って診療室に入ってきた患者さんに松本先生は質問しました。
「脳梗塞をやられたんですか？」と。

その問いかけに患者さんは「はい、そうなんです」と答えました。

先生「血圧のお薬はちゃんと飲んでいましたのですか？」

患者さん「はい、ちゃんと毎日飲んでいました」

先生（心の声）『おかしいぞ。薬を飲んでいれば脳梗塞は起きないはずなのに!!!』

いろんなことを考えてモヤモヤしているうちに、そういう患者さんが3人続いたそうです。

「一度起きたことは二度起きない。二度起きたことは三度起きる。」とインドの諺にもありますが、これがまさに何かのサインだったのでしょうか。

先生はそこから調べに調べてみたところ、なんと、

『血圧の下げ過ぎによって脳梗塞が起きている人がいかに多いか』を知ったそうです。
（ちなみに夏にお風呂で倒れて運ばれる高齢者が多いのはご存知かと想いますが、そのほとんどが低血圧が原因だそうです。これは私の知り合いの救命救急士から聞いたお話です）

血圧は低い方がいい って 誰が言ったんですか？

それは 御用学者 が作ったお話です。

お話というのをもうちょっと難しく言うと 仮説 です。 仮説 をもとに薬が開発され、 仮説 をもとに処方される薬。 それを「お医者さんがくれるから」と言って飲む。

もうそろそろ、それやめませんか？？

* ちなみに西洋医学は『命・魂』を抜きに考える学問なので、それ自体が仮説です。

5月号のトクホの話でも書きましたが、コーラがトクホだとか健康志向だとかCMしてますが、あれは何かの冗談ですよ？(笑) まさか本気で信じてませんよね？(笑)

医療従事者に居たり耻ずかしくって目も当てられませんよね。(実際居るから困るのです)

なぜ 血圧は低い方がいいに決まっている と思いこんでいるのでしょうか？

それは、それによって儲ける人たちによって思いこまされていると考えたことはありませんか？

「国はわたしを守ってくれているに決まっている」

「国(政府)は国民の利益になることをやって当たり前だ」

なんて、いまでも想えますか？ 私はどうてい思えません。

信じていたのに、とか、だまされた、とか、ちくしょー、とか思いますか？

だったら、盲目的に信じている医療・健康の話は、本質を考えて理解しなければいけないでしょう。

テレビで言われる 常識 は 事実 でもなければ 真実 でもありません。

では真実を知るにはどうしたらいいのでしょうか？

なにも難しくはありません。

病気や症状のせもせもを考えれば、答えはとっても簡単なのです。

自分の考えに自信がなければ、私に聞いてください。

自分で考えてもわからなかったら、私と一緒に考えましょう。

わたしたちは2年前の福島原発事故で多くのことを学んだはずですよ。

それまでの『原発安全神話』って、なんだったの？『原発肯定派』ばかりがテレビに出て、それっぽくしゃべる。そして『原発反対派』は敵役のようにセティングされる。もしくはそう編集される。それが繰り返されると「原発は必要だ」と思いこまされる。

それが今まででした。でも、今はもう違います。原発なんて必要ない。

ほとんどの国民がそう想っているはずですよ。

医療もね、これと同じなんですよ。

とくにメタボ健診にはじまる『血圧 コレステロール の常識』や『ワクチンの常識』

松本先生の話に戻すとなんでも「症」をつけて病気を作っているのです。

高血圧 という状態。これはカラダがそのとき最良の状態をつくった結果ですよ。

もしかしたら ストレスに対抗しなければいけないかもしれない

もしかしたら 脳のすみずみにまで血液を送り届けなければいけないかもしれない

もしかしたら 内臓をあたためなければいけないかもしれない

だからポンプを強くして血液をたくさん送り出そうとしているのです。

それをムリヤリ低くしたら、どうなりますか？

血液が行きとどかなくなったらどうなりますか？

それが 『脳梗塞』 の原因なのです。

松本先生は1998年くらいにお気づきになったのですが、いまでもまだお気づきになられていないお医者さんの方が圧倒的に多いようです。変えていかなければいけないことです。

この話をすると湿っぽくなるのですが(ビスクでの講演の時もそうでしたね)これは伝えなければいけないことだ、と私は想っています。

医療は『健康で長生き』するためのものなのに薬(血圧、コレステロール、ガン、骨、胃薬など)を飲んで健康で長生きした という論文はひとつもない。それが事実であり、真実ですよ。

今からでも遅くありません。お気軽にご相談ください(^u^)

☆もちろん、中には薬が必要な人も居ますので、私に相談してくださいね。